

## 第三者意見

シチズングループ(以下、シチズン)「CSR報告書2016」で開示されている内容に対しての、筆者の専門的な見地から、重要と思われる項目に対しての意見は下記の通りです。今後の施策や情報開示の参考として、より高いレベルのCSRの実践に結び付けていただくことを期待いたします。

冒頭に紹介されるエシカル時計『CITIZEN L』は、シチズンのCSVの具現化の一例として、シンボリックな形で、消費者や業界に訴求できる優れた製品と考えられます。時計に求められるラグジュアリー性に、新たにエシカル・サステナブルな価値を融合させる試みは、今後のシチズンのものづくりの指針となると期待されます。製品の成分表、カーボンフットプリントの開示と並んで、コンフリクト(紛争)フリーを達成したとされていることは、特に注目される成果と言えます。同時に、この製品の企画が女性従業員によって立ち上げられたことは、ダイバーシティ経営の一つのビジネスケースといえる好事例です。

今後は、今回達成した優れたスペックに加え、さらなるサプライチェーンの透明性、特に製造過程での人権・労働慣行という側面についても高いレベルのエシカル度にチャレンジしていただきたいと思います。

報告書前半のお客様、社会、従業員へ提供する価値の項目は、昨年に比較し、シチズンのCSVの考え方をより明確に伝えています。また、シチズングループの価値創造プロセスの記載は、引用はないもののIIRC(国際統合報告評議会)フレームワークの考えを取り入れており、昨年の意見書で指摘した国際的イニシアティブ対応への意識が一步進んだと感じさせます。今後は、価値創造の事例のみならず、どのように価値創造を実現してゆくのかについて、シチズン特有の価値創造の原動力やビジネスモデルについての考え方、また、それがどのような成果、社会的価値創造に結びついているかの掘り下げを期待します。

ロイドレジスター  
クオリティ アシュアランス  
リミテッド事業開発部門長  
GRI グローバル・サステナビリティ  
標準化ボード(GSSB)

富田 秀実 氏



後半の、「シチズングループのCSR」に関しては、ISO26000の中核主題に基づく構成をとっており、シチズンの取り組みの状況がある程度網羅的に記載されていますが、記載内容が取り組み事例や、その成果の説明に限定されています。トップメッセージでは、ダイバーシティの取り組みについての成果や目標と共に、現状の課題についても率直に言及されていますが、ISO26000の各中核主題に関しても同様に、どのような課題やリスクがあるのかについて、より積極的な開示を求めたいと思います。同時に、方針、KPI(重要業績評価指標)やグローバルレベルでの目標などを明確にし、パフォーマンスに関する数値情報を充実することにより、ESG(環境・社会・ガバナンス)投資家等のステークホルダーの期待に資することとなりますので、ウェブ等も活用して情報開示の質を向上させることを期待します。

本年予定されている機構改革を通じて、ガバナンスの側面からも取締役・経営層のCSRへの関与を一層深め、「シチズン」の名にふさわしい企業へのさらなる進化を期待します。

### 第三者意見を受けて

貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。

「シチズングローバルプラン2018」の「真のグローバル企業」となるためには、遵法経営はもちろんのこと社会課題の解決や社会貢献、信頼性の構築、ESGへの対応並びに積極的な開示など、取り組むべき課題はたくさんございます。

CSVの推進活動につきましては、取り組み始めて間もない状況ですが、グループ内の各事業に徐々に浸透してきており、今後もさらに積極的に推進したいと考えています。

今回のご意見を参考にして、シチズングループの「市民に愛され市民に貢献する」企業理念のもと、ステークホルダーの皆様に、よりご理解を深めていただくグループ活動の報告となるよう、今後も努力を続けたいと思います。



シチズンホールディングス  
CSR室 室長

飯塚 芳良